機械クラブだより　－第 12 号－

2017（平成 29）年 9 月 1 日

◎　ご挨拶　・・・

◆　ご挨拶

機械クラブ会長　M⑯ 冨田 佳宏

地球温暖化がもたらす亜熱帯のような猛々しい天候、安倍内閣支持率低迷による国内政治の不安定化、朝令暮改の米国大統領の迷走がもたらす混迷、英国の EU 離脱がもたらす予想外の展開、近隣諸国の潜在的な脅威の顕在化、などなど枚挙に暇がないほど我が国の先が見えにくい時代に突入しつつあるように感じております。そのためか現状で良かれとの短絡的な判断にて行動する若者が多いことにも不気味な感じがします。恐らく今年の流行語になるであろう「忖度」がもたらす国内政局の不安定化の兆候も見逃すことができません。加えて教育のトップに居た者が「面従腹背」を座右の銘としていると公言するに至っては、只々呆れるばかりです。ただ、このような状況下でも、次世代を担う若年層の多方面での活躍は、一種の清涼感以上の効果をもたらしております。

前置きが長くなりましたが、機械クラブ会員の皆様方におかれましては機械クラブ運営に格別のご理解とご支援を賜り篤く御礼申し上げます。皆様から頂戴致しましたご提言を参考にし、多方面から継続して魅力的な機械クラブ運営を行うために様々な取り組を致しております。各種機械クラブ主催の催の案内に対するご回答も前よりは多くなっているように感じておりますが、会費や寄付金に反映するには至っておりません。各部会の活動内容報告をご覧頂き、機械クラブの現状をご理解頂きますれば幸甚です。

機械クラブの主要な活動の一つである会員の皆様方にご参加頂く催しについては担当の部会において会員のご要望に応えられるよう務めております。他に、教員・学生の研究支援・表彰、フォーミュラーカーやレスキューロボットなどの学生の自主活動に対する支援等が機械クラブの主要な活動となっております。さらに、大学のグローバリゼーションに関連して、学生諸君の海外での研究発表・研修などに対してこれまで以上の支援も要請されております。これらの活動を一層充実させ、支援を手厚くするための原資となる会員の皆様に納入頂きます年会費ならびに寄付金が不可欠であり、一層のご理解と温かいご支援を賜りますようお願い致します。現在、機械クラブ主催の催しにおいて、参加致しました役員から、機械クラブの活動にご協力賜るようお願い致しております。

◆　機械工学専攻 構成表

（2017 年 4 月 1 日現在）

	教育・研究分野	教　授	准教授	助教・助手	技術職員，事務職員など	
熱流体エネルギー	応用流体工学（MH-1）	山根 隆志	片岡 武		芳田 直征	後藤 佳苗 三宅 真子
	混相熱流体工学（MH-2）	竹中 信幸	浅野 等	村川 英樹 杉本 勝美		
	エネルギー変換工学（MH-3）					
	エネルギー環境工学（MH-4）	冨山 明男	細川 茂雄 林 公祐			
材料物理	固体力学（MM-1）	阪上 隆英	塩澤 大輝		古宇田 由夫 中辻 竜也	
	破壊制御学（MM-2）	中井 善一	田中 拓	菊池 将一 横田 久美子		
	材料物性学（MM-3）	向井 敏司	田川 雅人	池尾 直子		
	表面・界面工学（MM-4）	田中 克志	長谷部 忠司	寺本 武司		
設計生産	複雑系機械工学（MA-1）	横小路 泰義	田﨑 勇一		片山 雷太	
	機械ダイナミックス（MA-2）	神野 伊策	肥田 博隆			
	コンピューター統合生産工学（MA-3）	白瀬 敬一	佐藤 隆太	西田 勇		
	知能システム創成学（MA-4）	磯野 吉正	菅野 公二			
	創造設計工学（MA-5）	田浦 俊春	妻屋 彰	山田 香織		
研究基盤センター			藤居 義和			

機械クラブの会員の皆様方のご支援を賜り務めてまいりました私の会長職の任期も来年 3 月まで残すところ大よそ半年となっております。現在会長選出規程に則り会長推薦委員会において新会長の推薦を鋭意進めて頂いております。会員の皆様方におかれましては、機械クラブの運営・活動に忌憚のないご意見を賜りますとともに、一層御支援・御協力の輪を広げて頂きますようよろしくお願い申し上げ、会長の挨拶と致します。

◆ 機械工学専攻の近況

機械クラブ総会（平成 29 年 3 月 24 日）において、磯野専攻長から、学科構成、大学の変革への対応について報告頂いた。概要は以下の通りである。

いい卒業生を輩出するために基礎能力の養成教育などの教育理念をもとに教育を行っている。材料物理、熱流体、設計生産の３講座の中にそれぞれ４～５の教育研究分野がある。現在の教職員構成は前ページの表の通りである。文社系定員削減の影響から、学生定員は次年度から 103 名となる。研究では、熱流体講座では、混相流、エネルギー輸送、エネルギー交換など、材料物理講座では、材料強度シミュレーション、疲労破壊、医療や高温材料の創製など、設計生産講座では、MEMS（細かいデバイス）設計～製作から応用まで、など、幅広く研究が進められている。生体材料の研究（材料物性学）がホットな話題であり、盛んである。

大学改革が進められ、大学の予算は削減されている。神戸大学は卓越した教育研究を行う大学になっている。昨年度は評価が良く、予算 1.3 %増の結果であったが、来年度は評価が悪く前年比 2.1% 減となることが決定された。

文科省は機能強化について、① 研究分野、② 教育分野、③ 組織改革の強化を求めている。神戸大学では以下の対応策を講じている。

研究分野：大型研究予算獲得に伴う間接経費で予算を補填する。

教育分野：2016 年度から４学期（クオーター）制を開始した。これは日本の大学としては早いほう。2 か月を 1 学期として、単位を与える。学生は 1 週間で 2 回講義を受けることになる。欧米の方式に合わせることで、欧米の大学に留学しやすくなる。グルーバル化対応の一つである。

組織改革：第 3 期中期目標期間 6 年間の間に専攻内組織の再編を考えている。

学生の課外活動について報告があった。昨年、フォーミュラ大会は 106 校中 8 位、レスキューロボットでも好成績を残した。これらの活動支援への感謝が述べられた。

◆ 平成 28 年度総会講演会 概要

開催日時：平成 29 年 3 月 24 日（金）17:30～18:40
開催場所：兵庫県私学会館
講師：三菱重工業(株)
　　エネルギー・環境ドメイン
　　原子力事業部　機器設計部
　　朝田 誠治 氏（M㉟）
演題：原子炉容器設計に必要な評価技術
出席者：68 名
講演概要：（講演スライドは機械クラブホームページに掲載されております。）

三菱重工業㈱で製作されている PWR 型原子力発電についてご講演いただいた。2004 年 5 月 4 日に発生した大飯三号機の応力腐食割れ事故の実際の計算事例も引用いただき、非常にわかりやすく説明いただいた。

弾塑性 FEM 解析は有効な手法である。計算機も進歩して 3 次元の細かい解析もできるようになっている。ただ、ブラックボックスも多く結果のチェックには材料力学を理解していることが必須である。

疲労解析では、低サイクルだけでなく、高サイクル側の検討も必要となっている。なかなか難しい分野。

破壊力学評価では、微小な破損部分が万一見つかった場合、この講演で説明された方法で、次回補修までの進行予測をすることもできる。

これらすべてが材料力学の理解が基礎となっている。解析は専門家が実施してくれるが、結果だけをただ見るのでなく、材料力学の観点からの現象の確認考察が必要である。

＜質疑応答＞
質問 1 : 社会に役立つ仕事をしたいと思っているが、原子力のような大規模な仕事は怖さもあると思う。どのようにそれを克服されたか？
回答 1 : 技術の積み上げを確実に行うことが必要である。新設計では実験、解析、レビュー会等を確実に行って、知識を集めることが必須である。自分が設計したものは現場を自分で見に行ってほしい。
質問 2 : 高サイクル疲労をもたらす要因は？
回答 2 : ポンプに接続する配管に生じる高サイクル疲労が一般的である。それ以外では、もんじゅの事故で、配管に挿入された（センサーなどの）鞘管が流体振動で壊れた事例がある。この事故がきっかけで、流体振動で壊れない条件で設計する規格を作った。それに従い、種々の器具を取り替えた。
質問 3 : 貫通している配管の応力集中に対しどのように設計されているのか？
回答 3 : 配管系は計算のための係数が決まっているのでそれをもとに設計している。

◆ 平成 28 年度「新入会員歓迎会」報告

開催日： 平成 29 年 3 月 24 日（金）
開催場所：兵庫県私学会館

本年度も例年通り、この日卒業したばかりの卒業生、これから社会人となる修了生諸君を迎えて新入会員歓迎会が催された。司会は昨年度同様、平田総務部会長が担当された。冨田会長からの新入会員を歓迎する挨拶につづき、磯野専攻長からのお話しがあった。磯野専攻長の任期は本年度までということで、専攻長としての２年間の経験に基づいた新入会員へのメッセージが送られ、続けて乾杯の音頭をとっていただいた。宴の半ばに表彰の場が設けられ、以下の学生が表彰された。本年度は、機械クラブ会長賞に相応しい人物２名、甲乙付け難しということで、会長賞が２名に授与された。

KTC 理事長賞
今倉 伸浩（大学院博士課程前期課程 2 年）
学業における顕著な活躍
機械クラブ会長賞
橋口 大樹（大学院博士課程前期課程 2 年）
アカペラサークルにおける顕著な活躍
長谷川 正悟（大学院博士課程前期課程 2 年）
レスキューロボットにおける顕著な活躍
機械クラブ国際活動奨励賞
青山 昌平（大学院博士課程後期課程２年）
9th International Conference on Multiphase Flow, 2016 年 5 月, Firenze, Italy
石田 昴平（大学院博士課程前期課程 1 年）
7th International Conference Position Technology, 2016 年 11 月, Seoul, Korea
中西 巧（大学院博士課程前期課程 2 年）
International Symposium on Flexible Automation, 2016 年 8 月, Ohio, USA
長尾 淳志（大学院博士課程前期課程 1 年）
7th International Conference Position Technology, 2016 年 11 月, Seoul, Korea
下門 輝也（大学院博士課程前期課程 2 年）
9th International Symposium on Impact Engineering, 2016 年 9 月, Tainan, Taiwan

冨田会長から受賞者に賞状と副賞が授与された。機械クラブ会長賞を授与された橋口君の受賞理由がアカペラサークルにおける活躍であることが紹介されると、会場から 1 曲のリクエストがあり、得意のアカペラが披露された。これに応じて OB からは酒井氏からも懇親の 1 曲が披露され、多いに盛り上がった。続いて恒例の校歌合唱が行われた。大先輩が神戸高等工業学校校歌を、さらに数十名の卒業・修了生が加わって神戸大学学歌を大合唱した。(機械クラブのホームページで斉唱の様子の動画をご覧頂けます)

最後に、薮前会長から新入会員へお言葉をいただき、白瀬教授の音頭で会は締めくくられた。

校歌・学歌斉唱の様子

◆ 平成 29 年度機械クラブ第１回理事・代表会 開催報告

M⑱　平田 明男

開催日時：平成 29 年 5 月 10 日（水）10:30～11:30
開催場所：瀧川記念学術交流会館 2 階会議室
出席者：26 名
議事概要：

１．会長挨拶

皆様から頂戴いたしましたご提言を参考にし、多方面から継続して魅力的な機械クラブの運営を行うために様々な取り組を行っております。各種機械クラブ主催の催の案内に対するご回答も前よりは多くなっているように感じておりますが目立った増加傾向はみられません。平田総務部会長を中心に検討された結果ならびに各部会における活動内容について報告頂く予定であります。

機械クラブ会員の皆様方にご参加頂く催しについても担当の部会において皆様のご要望に応えられるよう務めております。これ以外に、機械クラブの活動はご承知のように、教員・学生の研究支援・表彰、フォーミュラーカーやレスキューロボットなどの学生自主活動に対する支援がもう一つの柱となっております。さらに，大学のグローバリゼーションに関連して、学生諸君の海外での研究発表・研修などに対してこれまで以上の支援も要請されております。これらの活動を一層充実させ、支援を手厚くするための原資となる会員の皆様に納入頂きます年会費ならびに寄付金が不可欠であります。会計報告にもございますように、今後一層のご理解を頂き、温かいご支援が不可欠であります。現在、機械クラブ主催の催しにおいて、参加いたしました役員から、多くの方々にご協力賜るようお願い致しております。

本日ご出席の皆様方におかれましては、なにとぞ機械クラブの運営・活動に忌憚のないご意見を賜りますとともに、支援の輪を広げて頂きますようよろしくお願い申し上げ、会長の挨拶と致します。

２．各部会推進状況報告

(1)　総務・HP　学生自主活動に対する支援金を本日贈呈した。両チームの健闘を祈る。
(2)　財務　会費納入数は 5 月 9 日現在 478 名でほぼ昨年並み。ご出席の皆様には近くの方への呼びかけをお願いする。
(3)　機関誌　KTC 機関誌へのエッセイの投稿募集が近々始まる。
(4)　講演会　予定通り進捗している。
(5)　見学会　9 月 20 日（水）午後開催。見学先は新明和工業（株）甲南工場（航空機事業）。
(6)　会員親睦　第 171 回にはM⑱の同期コンペが合流する。他の回生もご配慮願いたい。
(7)　座談会　基幹座談会の開催が今後困難になると予測されるため新規座談会を検討中である。
(8)　クラブ精密　6 月 2 日（金）第 30 回記念会を開催する。
(9)　東京支部　総会、見学会の予定を決定した。多数の参加をお願いする。

(後列左から) M⑨松本, M⑭酒井, M⑧峰野, M⑧井上, M⑫光田, P⑥柏岡, M⑫藪, M⑫西下, M⑨小澤, M㉑玉屋, M⑪赤川, M⑪馬場, P⑥井宮, M⑲山岡, M⑱副島, 田中専攻長,
(前列左から) M⑨永島, M②杉浦, M①山村, M⑯冨田, 進藤先生, P3 辻, M⑩尾本, M⑩寺井, M⑱平田

平成 29 年度機械クラブ第 1 回理事・代表会　集合写真　（撮影：M㉚白瀬）

３．会長推薦委員会設置について

会長推薦委員会について、委員会設置、電子メールによる会議、が承認された。規程により総務部会長が幹事を務める。

４．機械工学専攻の近況　（田中克志専攻長）

学科構成、教職員の異動、今春卒業・修了生の進路、クォーター制の進捗状況／ギャップタームについて詳細にご説明いただいた。最後に本日贈呈した学生の自主活動に対する支援金に対する謝辞をいただいた。

５．KTC 近況報告（平田総務部会長）

(1)　平成 28 年度決算報告が承認された。

(2)　社員総会 5 月 19 日(金)17:00～於楠公会館

講演会 講師：工学研究科電気電子工学専攻
塚本 昌彦 教授

演題：ウェアラブルコンピューティングの動向と将来

６．企業代表の交代

新日鐵住金(株)企業代表がM⑩長澤忠彦氏からM㉛山村佳成氏に交代する。

◆ 平成 29 年度東京支部総会 報告

M㉘　近藤 和憲

開催日時：平成 29 年 7 月 12 日(水) 19:00～11:30
開催場所：神戸大学東京六甲クラブ
出 席 者：11 名

今年の神戸大学機械クラブ東京支部総会は、平成 29 年 7 月 12 日(水) 19 時から東京六甲クラブにて開催されました。神戸から機械クラブ副会長の平田明男様、機械クラブ理事の山岡高士様も掛けつけてくださり、総勢 11 名の方々にお集まりいただきました。

総会の部では、前塚支部長から平成 28 年度活動報告および平成 29 年度活動計画の説明があり、承認されました。また、井上幹事より平成 28 年度決算報告が行われ、承認されました。

近年活躍目覚しい「神戸大学学生フォーミュラ」の活動資金援助の件については、総会当日の懇親会費の中から寄付をすることとしました。

東京支部イベントとして、昨年は防衛装備庁陸上装備研究所を実地見学し大変好評であったため、今年も開催することとし、9 月 27 日に JFE スチール（株）東日本製鉄所を見学します。同社 OB の仲田卓司様、同社現役の北畑慶之様のご尽力により、最新鋭の製鉄設備に触れ、製鉄所における機械エンジニアの役割等を理解できるまたとない機会となります。詳細は機械クラブホームページをご覧ください。多くの会員の方々の参加を期待します。

続いて、講演会に移りました。今回はいすゞ自動車ご出身の黒田和之様（M㉗）に自動車会社における設計の情報システム化、設計プロセス改革について講演いただきました。20 年にわたる CAD/CAM/CAE/コンカレントエンジニアリング等の取り組みについて実例を交えてお話いただきました。設計の情報システム化は単なる ICT 化ではなく、「社員の考え方の変革・教育そのもの」であることがよく分かりました。当日は参加者のご子息であり大学院で機械工学を専攻されている方も参加され、講演内容が大変参考になったようです。

その後、懇親会へと移り和やかに歓談が進み、最後に副会長の平田明男様に締めのご挨拶と東京支部への激励をいただき、無事閉会となりました。

首都圏には機械クラブ会員が 540 名も在住されています。今後とも、一人でも多くの卒業生の方にご参加頂きたく幹事一同からお願い申し上げます。今回、ご参加いただいた皆様、講師の黒田様、誠にありがとうございました。

（後列）M㉘近藤, M㉓仲田, M㉗前塚, M㊱浜田, M㉙井上
（前列）M⑲山岡, M㉗黒田, M⑱平田, M⑰三浦

東京支部総会　集合写真

◆ 平成 29 年度「先輩は語る」講演会
ー 併催：機械クラブ国際活動奨励賞報告会，学生自主活動支援金贈呈 ー

講演会部会長　白瀬 敬一　M㉚
西田　勇　M(56)

開催日時：平成 29 年 5 月 10 日（水）8:50～10:20
開催場所：瀧川記念学術交流会館 2 階会議室
司　　会：白瀬 敬一 教授

◎ 「先輩は語る」講演会

講師：三菱重工業(株) 民間機セグメント
民間機事業部 技術部 設計一課
船津 竹史 氏（M(55)）
演題：航空機の開発設計と維持設計
講演内容：

講演の初めに船津氏のご略歴が紹介された。船津氏は現在、三菱重工業株式会社民間機セグメント民間機事業部にて、民間旅客機の維持設計や運用中に関わるトラブル対応に携わっていることが紹介された。続けて、所属部署の業務内容に関する説明をいただいた。船津氏が所属する民間機セグメント民間機事業部では、主に民間旅客機の設計から製造、製造後の設計改善、量産におけるトラブルや運用中のトラブル対応まで航空機製造プロセスの上流から下流まで携わっていることを解説いただいた。

その後、民間旅客機の開発設計について説明をいただいた。民間旅客機の開発設計とは、安全性基準に適合することを証明し、承認を得ることである、と解説され、安全を最優先した設計が求められていることが強調された。次に、船津氏が携わった運用中のトラブル対応についての経験をお話しいただいた。運用中のトラブルが発生した原因を追究する際に、原因と考えられる箇所を一つ一つ調査したが問題が見つからなかったときに、問題を俯瞰して見ることで解決できた経験をお話しいただいた。問題を局所的にとらえるのではなく、全体像を見ることの重要性を解説いただいた。

最後に、後輩の 1 回生に向けてのメッセージをいただいた。技術者として重要なことは専門性とコミュニケーション力であることを強調された。日頃の授業では何に役立つのだろうかと疑問に思うこともあるかもしれないが、内容ではなくとも習ったということが記憶にあれば、調べることができるので、日頃の授業を大切にしてほしいと伝えられた。また、自分の考えていることを正しく相手に伝えられるようコミュニケーション力も培ってほしいと伝えられた。

ご講演の後には、学生から会社の事業についての質問があった。民間用の航空機と軍事関連の航空機の違いについての回答は、民間用の航空機は安全性を最優先に機体を設計するのに対し、軍事関連の航空機は帰還性を最優先に機体を設計するとのことだった。このように造るものによって何を最優先に設計するかが重要である。

本講演が学生に大変刺激を与えたものだったに違いない。

◎ 機械クラブ国際活動奨励賞報告会

平成 28 年度受賞者（所属学年は受賞当時）

石田 昂平 (大学院博士課程前期課程 1 年)
長尾 淳志 (大学院博士課程前期課程 1 年)
下門 輝也 (大学院博士課程前期課程 2 年)
中西　巧 (大学院博士課程前期課程 2 年)

石田君、長尾君から参加した学会の様子や、学会にて発表した研究内容が紹介された。下門君、中西君については、当日参加できなかったため、預かった資料の紹介を白瀬教授から行われた。いずれの報告でも、国際会議の雰囲気を伝えるための工夫があり、また、学部・修士と努力することにより国際会議での発表のチャンスをつかめる、という点が強調されていた。学生生活を楽しみながら、弛まぬ努力を、という先輩学生たちからのメッセージであった。

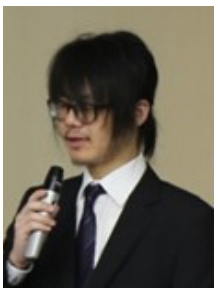
石田 君

長尾 君

◎　学生自主活動支援金贈呈

機械クラブから学生フォーミュラチーム（FORTEK）およびレスキューロボットチーム（六甲おろし）に対して、冨田会長より支援金が贈呈された．各代表からは皆様の期待に応えられるよう，より一層の努力を重ねるとの抱負が述べられた。

学生フォーミュラ代表



レスキューロボット代表

◆　クラス会報告

➢　M⑩卒業 55 年記念同窓会

今年 2017 年は我々M⑩生が卒業して 55 年になる。これを記念に 5 月 22 日「しあわせの村」にて５年ぶり同窓会を開催した。

現在、在籍者 42 名であるが、卒業 55 年となると車椅子生活で歩行にも難渋する人、闘病中の人、老々介護で参加出来ない人、外泊はちょっとという人なども増えてきているのが現状である。その中、九州、東京からの参加を得て、出席者は総計１８ 名であった。

KTC や機械クラブ活動の情況・会費納入のお願い、ホームカミングデイの説明を竹内君から、機械クラブ理事会の報告や新しい４学期制（クオーター制)、英語での授業（英語の授業ではない）など母校の国際化へ向けての新しい情況の説明が寺井君からあった。

宇田君からは、我々の同窓会の翌日にポートピアホテルで行われる全学部（経済・経営・法科・文学・教育・工学・理学だけでなく、我々の卒業後に神戸大学に統合された農学部（旧兵庫農大)、海事科学部（旧神戸商船大学）も合せて）の 1962 年卒の同窓生の卒業記念同窓会の情況（参加予定者　約二百余名、「京」コンピューター見学など）の紹介があった。

旧交を温め、絆を深める中、我々M⑩回生の入学時（西代学舎於いて）の写真の提示があった。59 年前の若かりし自分、友との遭遇に息をのむハプニングで、写真に写った髪のボリューム、体つきなどに幻惑され自分自身がどれか、これはいったい誰なのか、面影が今も残っている人、中には様変わりもあって一時は紛糾した。写真を見る時間の経過とともに、だんだんと、なんとなく昔の面影が見えてきたが、判別出来たのは 7～8 割であった。

日本の高度成長を推進させる使命を持つ事を運命つけられた若者の「面」を見、一方、現状ほぼ八〇歳の自分を自覚し、その間の活動・実績を振り返る機会にもなった。これからの「生き様」を考える契機になったかもしれない。

各位の現状報告を通じて、変貌の激しいこの時期（社会情勢、各自および家族の健康など)、それぞれ誇りを持って、元気に生きていくことを誓い合った次第である。

(後列左から) 尾本, 木多, 竹内, 吉田, 三木, 福山, 小田(博)
(中列左から) 田中, 印藤, 寺井, 大部, 魚住, 清水
(前列左から) 宇田, 小田(陽), 森下, 梶井, 萩原

M⑩卒業 55 年記念同窓会 集合写真
（5 月 22 日　しあわせの村にて）

◆ 第５回基幹座談会「学生時代の思い出を語る座談会（M⑫から M㉓・P④）」報告

座談会部会長　M⑰　常次 正和

開催日時：平成 29 年 5 月 20 日（土）13:00～17:00
開催場所：工学部本館 2 階　多目的会議室
参加者数：37 名

機械クラブでは、回生毎の同窓会が適宜開催され、その様子が機械クラブホームページの「クラス会だより」に掲載されています。これに加えて、新たに回生・年齢を跨いだ同窓生の知己を得て、機械クラブ全体の会員間の親睦と交流を増進するための集いとして、「学生時代の思い出を語る座談会」が、これまでに 4 回実施されています。それらの報告はそれぞれ、ホームページの「座談会（寄稿文）」及び「機械クラブだより」第 6 号、第 7 号、第 8 号、第 10 号に掲載されています。

今回は、5 回目という事で、対象回生をどの範囲に設定するか座談会部会内で議論した結果、座談会対象回生としては 2 度目の座談会となりますが、これまで出席された方以外の方に出席頂くという事で、「学生時代の思い出を語る座談会（M⑫～M㉓・P④）」と題して、開催しました。

第 5 回基幹座談会では、出席いただける方（対象卒業生）を各回生から 2 名程度募り、最終的には合計 20 名の方々に出席を頂きました。添付

第 5 回基幹座談会　出席者　（順不同、敬称略）

回生	氏　名	卒業研究の講座の先生
M⑫	石原昌治	川井良次
M⑬	木本恭司	松本隆一
M⑭	白岡克之	中川隆夫
	藤岡正雄	川井良次
M⑮	池田順平	赤川浩爾，坂口忠司
M⑯	橋口悦夫	川井良次，岩壺卓三，村田英人
	福永善彦	中川隆夫
	神吉 博	川井良次，岩壺卓三
M⑰	石原国彦	川井良次，岩壺卓三
	阪井憲久	松本隆一，中島 健
M⑱	谷 民雄	赤川浩爾，坂口忠司，沢井洋征
	竹田 勉	松本隆一
P①	今村晴幸	中川隆夫，猪飼 靖
	福井 啓	小寺 忠
M㉑	島津登志成	川井良次
	谷口英二	川井良次，中川紀壽
P②	中川昭夫	進藤明夫，瀬口靖幸
M㉒	舟橋公廣	川井良次，中川紀壽
	溝田秀昭	川井良次，岩壺卓三，中川紀壽
M㉓	河原一郎	川井良次，岩壺卓三，中川紀壽

回生	氏　名	卒業研究の講座の先生
第３回座談会実行委員会委員		
M⑧	坂口忠司	赤川浩爾，武藤万秋
M⑨	永島忠男	赤川浩爾，武藤万秋
M⑭	酒井善正	川井良次，岩壺卓三
M⑮	堀 英教	川井良次，岩壺卓三
M⑰	常次正和	赤川浩爾，坂口忠司，沢井洋征
	八十川信介	鳴瀧良之助，岩田一明，森脇俊道
M⑲	山岡高士	進藤明夫，瀬口靖幸，佐藤正明
M⑳	中野直和	木村雄吉
M㉑	玉屋 登	岩壺卓三，瀬口靖幸
M㉒	江口 隆	川井良次
M㉓	多田幸生	進藤明夫，瀬口靖幸
P⑥	井宮敬悟	坂口忠司
M㊱	浅野 等	赤川浩爾，藤井照重
M(56)	西田 勇	白瀬敬一
機械クラブ役員代表等		
M⑯	冨田佳宏	進藤明夫，瀬口靖幸
M⑱	平田明男	井上 清
M(53)	伊藤隆裕	平澤茂樹，能登勝久

（後列左から）多田(M㉓)，江口(M㉒)，玉屋(M㉑)，中野(M⑳)，井宮(P⑥)，伊藤(M(53))，永島(M⑨)，坂口(M⑧)，酒井(M⑭)，冨田(M⑯)，平田(M⑱)，常次(M⑰)，山岡(M⑲)，西田(M(56))，浅野(M㊱)，堀(M⑭)，八十川(M⑰)
（前列左から）河原(M㉓)，溝田(M㉒)，舟橋(M㉒)，中川(P②)，谷口(M㉑)，島津(M㉑)，福井(P①)，今村(P①)，竹田(M⑱)，谷(M⑱)，阪井(M⑰)，石原(M⑰)，神吉(M⑯)，福永(M⑯)，橋口(M⑯)，池田(M⑮)，藤岡(M⑭)，白岡(M⑭)，木本(M⑬)，石原(M⑫)

第 5 回基幹座談会　集合写真

しております機械クラブ関係者を含む出席者名簿と全員の集合写真をご覧頂ければと思います。同期の方々、同じ講座の方々、同じ企業で働かれた方々は、懐かしい顔を見つけられるのではないでしょうか。

座談会の初めの部分で、ご出席の 20 名の方々には、お名前、回生、卒業指導の先生のお名前、卒業後のご活躍のごく簡単な自己紹介に加えて、現在熱中している事、特技、趣味等から、これはという事項を一つご紹介頂きました。これによって、出席頂いた皆さんには交流の切っ掛けを掴んで頂けたことと思います。

今回お集まり頂きました方々には事前にアンケートをお送りし、入学から卒業までの 10 数項目の中から特に印象に残っている思い出（項目）を第 1 位、2 位、3 位までの 3 つを連絡して頂きました。その結果、第 1 位に挙げて頂きました項目が、10 数項目にわたって 1～3 名程度で分散しておりました。

このようなアンケート結果から今回は、入学から卒業までの項目の中で第 1 位に挙げられた方が多かった項目の順に、第 1 部では、入学、授業、製図、工場実習のお話を、第 2 部では、研究テーマ、研究発表、就職活動、大学生活等といろいろな思い出をお話し頂きました。

座談会終了後、会場を工学振興会館に移して親睦会を開催しました。工学振興会事務局進藤様に手配いただきました美味しい料理とお酒を友に、2 時間弱の歓談が続きました。余興では、よし笛の独奏に加えて、元グリークラブ員による独唱とよし笛とのコラボにも酔いしれることができました。

遠くからのご出席を頂いた今回の座談会も無事終えることが出来ました。これも一重に、ご出席くださった皆様方並びに関係各位の熱意とご尽力の賜物と感謝いたしております。ありがとうございました。

なお、これまでの座談会と同様、当日話された思い出を中心に寄稿文として当部会にお寄せ頂くよう、ご出席の皆さんにお願いしました。出席された皆様全員からのご寄稿をお待ちしております。

◆ 寄稿文：思い出の架け橋

座談会部会

座談会にご参加いただいた方々を中心に、学生時代の思い出を寄稿文としてご投稿いただいております。現在、機械クラブホームページには 20 編の寄稿文が掲載されておりますので、是非、機械クラブホームページにご訪問下さい。
http://home.kobe-u.com/ktcm/

◆ 機械クラブゴルフ同好会 (KTCMG)報告

Ⅰ．第 168 回コンペ報告

第 168 回コンペを平成 29 年 4 月 12 日に東条の森カントリークラブ・東条コースにて開催しました。 今回は初参加の國光さんも加わり、漸く 9 名のコンペとなりました。

大和敏郎様 M⑯が優勝され、準優勝は西下俊明様 M⑫、3 位は國光秀昭様 M⑱と、ゴルフシーズン到来を飾りました。

優勝者＆ブービーのコメント

・優勝者：大和敏郎様

数年前から KTCMG 会に参加させて頂いています。 今回は、レギュラーティから 6,955 ヤードある東条の森 CC、東条コースでプレイをしました。 朝のスタート時点では雨模様かと思いましたが、直ぐにゴルフ日和となり楽しくラウンドすることが出来ました。 いつかは優勝して冨田カップのトロフィーに名前を刻みたいと思っていましたが、 1 打差で優勝することができ大変嬉しく思っています。

・ブービー：光田芳弘様

大好きな東条コースで第 166 回は優勝、今回はブービーと、忙しい結果を満喫しています。

第 168 回 KTCMG の結果概要

➢ 上位入賞者の成績

順位	氏名	回生	GRS	HDCP	NET	新 HDCP
優勝	大和 敏郎	M⑯	91	14	77	11
2 位	西下 俊明	M⑫	96	18	78	15
3 位	國光 秀昭	M⑱	103	24	79	WP

(左から) 松場(M⑫), 西下(M⑫), 永島(M⑨), 光田(M⑫), 橋本(M⑫), 市橋(M⑯), 成松(M⑯), 國光(M⑱)

第 168 回ゴルフコンペ集合写真（撮影：大和(M⑯)）

Ⅱ．第 169 回コンペ報告

第 169 回コンペを平成 29 年 7 月 24 日に東条の森カントリークラブ・東条コースにて開催しました。今回は初参加の高橋 M⑱様も加わり、前回同様 9 名のコンペとなりました。

光田芳弘様 M⑫が優勝され、準優勝は國光秀昭様 M⑱、3 位は松場恒夫様 M⑫と、梅雨明けの一線を飾りました。ネットスコアでは国光様が一位ですが、HDCP がダブルペリアであるため、光田様に優勝を譲りました。次回は新 HDCP となりますので、優勝を目指してください。

優勝者＆ブービーのコメント

・優勝者：光田芳弘様

大好きな東条コースでまたまた優勝できました。同伴者並びにコースに感謝！、感謝！です。次回も頑張ろう。

・ブービー：松本啓史様

継続は力なり。きっと良くなる。

第 169 回 KTCMG の結果概要

➢ 今回は写真がありませんので、参加者を記します。（敬称略）

M⑨松本啓史,

M⑫松場恒夫, 西下俊明, 橋本宏一, 光田芳弘

M⑯大和敏郎、市橋誠

M⑱國光秀昭、高橋久雄

➢ 上位入賞者の成績

順位	氏名	回生	GRS	HDCP	NET	新 HDCP
優勝	光田 芳弘	M⑫	93	17	76	13
2 位	國光 秀昭	M⑱	100	WP (25.2)	74.8	25
3 位	松場 恒夫	M⑫	89	12	77	11

◎ 第 170 回コンペは以下の通りです。次回は M⑱回生がダブルコンペを同時開催してくれますので、久し振りに 4 組のコンペとなりそうです。皆様奮ってご参加ください。

・第 170 回 KTCMG 10 月 23 日(月)
大神戸ＧＣ

◆ 機械クラブホームページのご案内

URL： http://home.kobe-u.com/ktcm/

機械クラブでは活動のようすを会員の皆さまにお伝えするため、ホームページに、各種行事の案内　および開催報告、クラス会報告に加えて、卒業生の方々による寄稿文を掲載しております。また、「機械クラブだより」のバックナンバーもご覧いただけます。神戸大学学歌、神戸高等工業学校校歌、寮歌など、紙面ではお伝えできない情報も充実しております。掲載情報を随時更新しておりますので、ホームページもご覧ください。

◆ Ｅメールアドレス登録のお願い

ホームページの更新情報をいち早く会員の皆様にお伝えするため“メール配信システム”の運用を進めております。現在４人に１人の登録をいただいていますが、未登録の皆さまにおかれましては、機械クラブ（ktcm@kobe-u.com）までご連絡下さるようよろしくお願い申し上げます。

◆ 財務部会からのお願い

財務部会長　M⑱　副島 宗矩

今年は会費納入の お願い活動を行いますので、ご協力よろしくお願います。

年会費は 2000 円です。

複数年分（5 年分等）の納入を歓迎します。

年会費、ご寄付の納入方法①

別冊の年会費納入者名簿からゆうちょ銀行「払込取扱票」を切取り、金額の内訳、お名前、おところ等をご記入の上、ゆうちょ銀行からお振込をお願いします。ゆうちょダイレクトからも取扱票へ記載の口座番号をご利用下さい。

年会費、ご寄付の納入方法②

三井住友銀行　　普通預金　　六甲支店 (421)

口座番号　1202658

口 座 名　神戸大学機械クラブ（カナ表記：コウベ゛ ダ゛イカ゛クキカイクラブ）

へお振込をお願いします。

三井住友銀行をご利用される場合はお名前の直後に、卒業年または回を入れてください。

クラス会でまとめて納入頂くことも歓迎します。納入者名簿、納入方法等に不明点がありましたら、下記要領にてお問い合わせください。

◆ お問合せについてのお願い

問合せ窓口は**機械工学専攻事務室**になります。

◎ 原則 E-mail(ktcm@kobe-u.com)でお願いします。機械クラブ担当者が対応します。

◎ 電話、郵便の場合、機械クラブ担当者に取り次ぎし、後日担当者から回答することになりますのでお時間がかかります。

【機械クラブだより　第 12 号】

発行所：神戸大学機械クラブ
発行人：機械クラブ会長　冨田 佳宏
発行日：2017 年 9 月 1 日
所在地：〒657-8501 神戸市灘区六甲台町 1-1
神戸大学大学院工学研究科
機械工学専攻事務室内
Tel :　078-803-6152
E-mail : ktcm@kobe-u.com
URL :　http://home.kobe-u.com/ktcm/